

養護学校への支援が地域に広げた思いやりの輪

青森ねぶたライオンズクラブ

取材／砂山幹博 撮影／田中勝明



JR浪岡駅の前にある青森市浪岡交流センター「あびねす」の小さなりんご園地。県立浪岡養護学校中部はここで、5月に人工授粉、7月にリンゴの絵付け、9月に収穫と、年3回の体験学習を実施する。青森ねぶたライオンズクラブ（小倉尚裕会長／35人）は3年前からこの体験学習を支援し、車いす利用者用の福祉車両の費用などを負担している。

収穫体験の後は、ライオンズと養護学校の生徒で駅周辺を清掃。支援の返礼として清掃をしたいという学校側の提案で始まった活動だ。子どもたちが懸命にゴミを拾う姿に影響を受けたのだろう、以前は大きなゴミ袋で5袋分も集まっていたゴミは、回を重ねるたびに減少している。

「養護学校の子どもたちから『自分たちは地域に貢献出来ている』という言葉を聞いた時には、この事業をやって良かったと思えました」（小倉会長）

ニーズに寄り添ったクラブの活動は、これからも地域に温かな思いやりの連鎖を生んでいくことだろう。